

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館企画展
「桐生のアーティスト2025 KIRYU
Fantasia 桐生幻想曲」から

画面の前に立つと、続いているようです。一つの生命体の核に触れるかのような感覚を覚えます。「自分の幻想とは空虚な感覚に迷い込んだ時に出現する」。本展に寄せた竹内美絵さんの言葉です。深い闇を刻む銀ペンの線は、画面の奥行きを静かに震わせ、かな光の脈動を呼び覚まします。黒の深淵（しんえん）の中では、形をとどめることのない何ものが絶えず表出します。

（小此木）

※22日（土）午後2時から竹内美絵さんのアーティストトークを展示室で開催します。

竹内美絵（1998年）

「生マレル時Ⅰ」（右） 「生マレル時Ⅱ」展示風景

2025年、アクリル、銀ペン、カンバス地、
パネル 162.0cm×97.0cm（作家蔵）

撮影 木暮伸也

